

事業概要シート

施策：水産業の振興

《 》は、29年度の当初予算

事業名：大村湾イカの島づくり事業	新規	予算額	2,800 千円
			《 0 》
財源内訳	国庫支出金	1,400 千円	
	県支出金	千円	
	地方債	千円	
	その他	1,400 千円	
	一般財源	0 千円	

【事業の目的・概要・対象】

() 内の数字は財源有の場合

【事業実施期間】 平成30年度から平成32年度まで 3か年事業

【事業の目的】

1. 大村湾の水産物の知名度（認知度）向上
2. 大村湾のイカ（コウイカ・カミナリイカ・アオリイカ）を特産品化
3. 水質やその他の特徴をデータ収集し今後の水産資源活用に利用

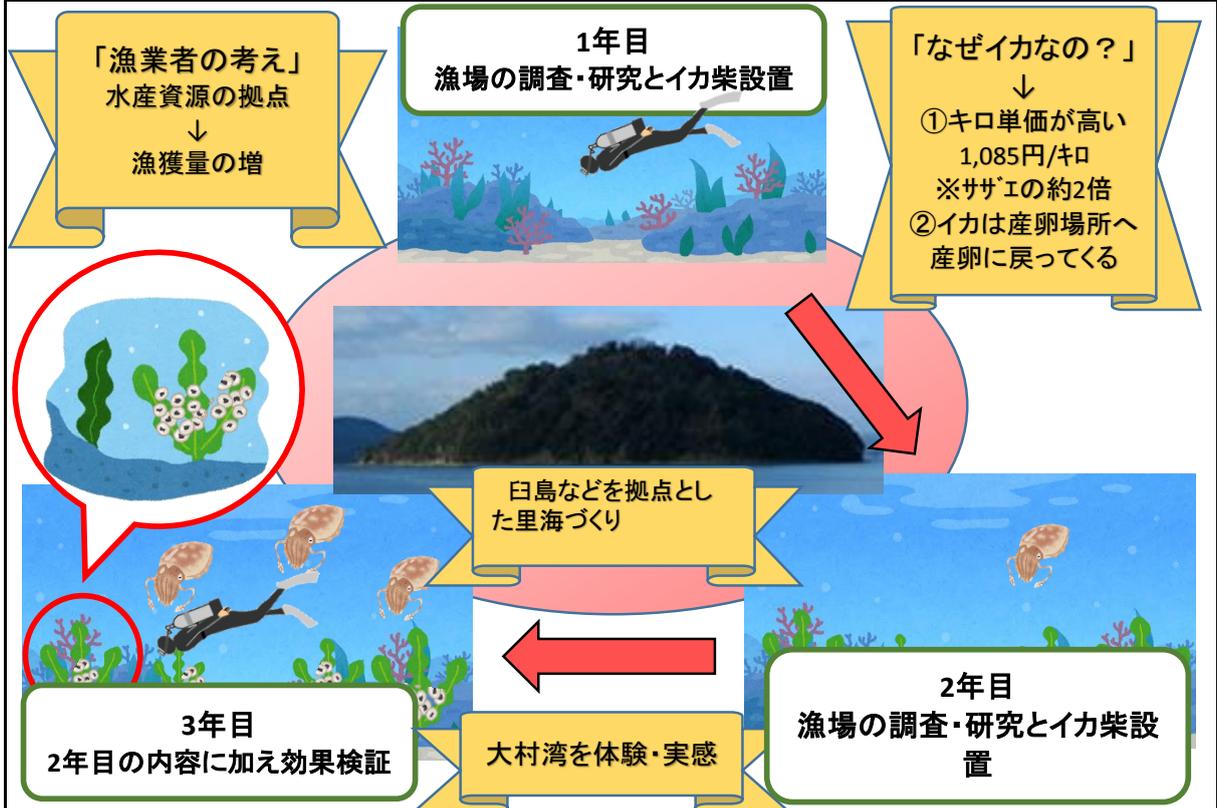
【事業の概要】

1. 事業主体：市 ※委託事業 委託先：海フェスタ大村湾実行委員会（予定）
2. 事業内容

- (1) 臼島周辺におけるイカの産卵場所づくり
- (2) 漁場の水質や海中などの調査
- (3) 市民体験型イベントの実施による里海づくり
- (4) 「ふるさと納税」または「クラウドファンディング」などを活用した水産物の知名度向上

【事業費】 平成30年度 2,800千円（（1）・（2）） 事業実施期間（3か年）合計 14,400千円

- (1) イカの産卵場所づくり 1,100千円
 - (2) 漁場の水質及び海中調査 1,700千円
 - (3) 市民参加型イベント 1,800千円
 - (4) 水産物の知名度向上 200千円
- (3) (4) については検討中



【背景】

ふるさと海である大村湾のイメージは、「風景はきれいだけど海水は汚い」「大村湾には水産資源が少ない」など、あまり良いイメージをもたれていない。一方で、ナマコ以外の水産資源は年々減少してきているなか、漁業者からは高い価格で取引がなされているイカの漁獲量を向上させるため、イカ柴設置に関する要望があっている。

以上のことから、①臼島等周辺の漁場環境を調査・研究、②イカ柴による産卵実験、③イカ柴設置を絡めた市民参加型イベントの実施などにより、大村湾の水産物の知名度向上とイカの特産品化に加え、実証実験で得たデータを今後の水産資源へ活用することにより、水産業の振興につなげる。

なお、日本財団の「海と日本プロジェクト サポートプログラム」の活用や「ふるさと納税」または「クラウドファンディング」などを活用したシティプロモーションもあわせて行う。

担当課	産業振興部農林水産振興課	問合せ先	0957-53-4111(内線251)
-----	--------------	------	---------------------

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (目標)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	海フェスタ大村湾実施回数	目標値 回	1	2	2	2	2
②	イカ柴の設置箇所	目標値 ヶ所	0	0	4	4	4

【成果指標】

指標名		単位	H28 (実績)	H29 (目標)	H30 (目標)	H31 (目標)	H32 (目標)
①	イカの産卵場所(設置場所)	目標値 ヶ所 (延べ)	0	0	4	4	4
②		目標値					

【予算・決算】

年度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	合計
事業費					2,800	2,800	5,600
国庫支出金					1,400	1,400	2,800
県支出金							0
地方債							0
その他							0
一般財源					1,400	1,400	2,800
人件費					1,600	1,600	3,200
職員					0.22人	0.22人	0.44人
時間外勤務					0h	0h	0h
嘱託員					0.00人	0.00人	0.00人
フルコスト	0	0	0	0	4,400	4,400	8,800

妥当性 (市の関与)	水産業の振興を図るうえで、イカの産卵しやすい環境づくりを行い、あわせて水産品の知名度を向上させるうえで、市の関与は妥当である。
有効性 (施策貢献度)	本事業を実施することにより、新たな水産資源をつくることができることから、施策貢献度は高いといえる。
効率性 (コスト)	日本財団の「海と日本プロジェクト サポートプログラム」の活用や「ふるさと納税」または「クラウドファンディング」などを活用するなど、財源の確保に努めることとする。

1次評価	担当者の意見のとおり
2次評価	1次評価意見のとおり